

令和3年度学校自己評価システムシート (県立鳩ヶ谷高等学校)

目指す学校像	総合制高校として3学科の特色を生かし、生徒一人ひとりが主体的に学ぶ力を育成する学校
--------	---

重点目標	1 生徒が実感できる確かな学力の向上 2 生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導の推進 3 メリハリのある生徒指導の徹底 4 地域に開かれた学校の更なる推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	アンケート結果から生徒の授業満足度が高く、学習意欲の高い生徒が増えている。しかし、確かな学力の向上には引き続き課題が残る。生徒が実感できる学力を保障するための取り組みとして、ICT等を活用した授業改善や資格取得及び進学補習等、学びやすい学習環境を整える必要がある。また、生徒が主体的に学ぶ力を育成し、国際理解を深め、共に生き協働できる人材の育成が課題である。	生徒が実感できるような学力の向上を図るため授業改善に取り組む。	①年次研修や授業公開週間を活用し、教員間の授業研究・授業改善に取り組む。また、1-7月間週間を実施し、生徒が自ら主体的に学ぶ態度・意欲を育てる。更に、家庭学習を習慣化させる。 ②業者テスト(学びの基礎診断)や外部模試から学習状況を把握しPDCAサイクルを活用しながら、相対的に生徒の学力を伸長させる。 ③各種資格の積極的取得させる。 ④グローバル教育を推進し国際理解を深める。	①他の教員の授業参観2回以上したか。 ①授業に満足している80%以上(生徒)、80%以上(保護者)、授業に集中している85%以上(生徒)、授業改善に取り組んでいる70%以上(保護者)、考査期間、テスト前以外1時間以上家庭学習している生徒30%以上(生徒) ②外部模試のデータの蓄積・分析して指導に活用できたか。外部模試1.2年3回以上実施したか。 ③各種検定受験者数や合格者が増加したか。また、上級資格に挑戦した生徒が増えたか。 ④グローバル教育を推進する取組が増加したか		
2	社会は、時代の変化に対応できる人材を求めている。今後、社会の一員として授業で学んだ知識や技術を活かせる生徒の育成が必要である。更に、生徒の進路適性を把握し、就業観を育成しつつ将来を見据えた進路を実現し、保護者の進路意識の向上と総合型選抜と大学一般受験者の増加が課題である。	生徒の実態に即した進路指導を推進し進路を実現する。	①進路に対する意識向上を図り、進路決定率を増加させる。 ②進路希望別(朝、放課後、長期休業中)の補習を実施し進路を実現する。 ③進路ガイダンス、小論文指導、分野別ガイダンス等積極的に実施し進路意識を高める。 ③外部講師を活用し、教員研修や保護者の意識を啓発する。 ④未来の職業人材育成事業・高校生の「農力」育成強化プロジェクト・産業教育フェア等へ積極的に参加する。	①進路決定率100%、就職内定率100%できたか。 ①進路指導に満足している80%以上(保護者) ②進路目標に向け、積極的に補習に参加したか。 ③1.2年は進路意識が高まったか。3年は安易に進路を選ばず質の高い進路実現ができたか。 ③大学一般受験、総合型選抜受験者が増えたか。 ③外部講師を招いて、教員研修会の実施及び保護者への啓発ができたか。 ④県事業等に計画的・積極的に参加できた。		
3	継続的な生徒指導により挨拶や身だしなみ、礼儀等、基本的生活習慣が身に付き、規範意識が向上している。しかし、遅刻者数と交通事故を減少させるための交通安全の育成は引き続き組織的な取り組みが必要である。更に、部活動の活性化と異校種との交流を進める。	生徒指導の徹底を図り、規範意識を向上させる。	①”ならぬことはならぬ”指導を継続し、基本的生活習慣の定着を組織的に取り組む。 ①毎日の立哨指導や講演会等を活用し、遅刻防止及び交通事故防止を徹底する。 ②校内表彰制度により、学校活動において、模範となる生徒を表彰する。 ③アルバイトの許可制を適切に運用し、部活動方針に従い、部活動を活性化させる。	①登校指導、身だしなみ指導を継続し遅刻件数年間1日3人以下。 ①身だしなみや言葉遣い挨拶に取り組んでいる100%(生徒)、90%以上(保護者) ①学校生活に満足している90%以上(生徒) ②校内表彰5名以上 ③部活動加入率90%以上 ③部活動は満足している80%以上(生徒)		
4	地元小中学校や地域との連携を深め、開かれた学校づくりをより充実させるためにホームページの更新と掲載内容を工夫する必要がある。また、生徒会を中心に生徒を前面に出し、自発的に発案実施できるようなリーダー層の育成が課題である。	保護者や地域の方との連携を深め、地域社会に信頼される学校づくりを進める。	①授業公開や体育祭・文化祭など学校行事等の情報をメール・HPで積極的に情報発信し保護者の参加・協力を得る。 ②生徒会活動を活性化させ、地域の行事に積極的に参加し、リーダーシップの養成を図る。また、異校種交流を進める。 ③学校説明会の内容や実施時期を検討し、参加者数を増加させる。 ④定期的にHP更新をするとともにメディアに教育活動を積極的に提供する。	①授業公開・体育祭・文化祭の保護者等の来場者が増加したか ①学校からの情報発信は満足している90%以上(保護者) ②地域との交流回数が増加したか。 ②学校行事は充実している75%以上(生徒)、85%以上(保護者) ③学校説明会の中学生、保護者の参加者数の合計1,000名以上 ④HPの更新は、月20回以上、メディアへの情報提供		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	